

令和7年度第1回 大和市文化財保護審議会 会議録

日時: 令和7年8月25日(月)

14時00分～15時30分

出席者等

委員(5名)	◎金子 皓彦、○鈴木 通大、坂本 要、田中 徳久、神崎 直美
事務局(4名)	文化振興課長、市史・文化財係長、市史・文化財係職員2名
傍聴者	なし

◎…会長 ○…職務代理者

◆公開・非公開の状況

■公開 □非公開 □一部非公開

◆会議次第

1 開会

2 議事

(1) 令和6年度郷土民家園指定管理業務の管理運営状況の評価について 資料1

(2) 令和7年度文化財保護事業の予定について 資料2

3 その他

4 閉会

◆会議要旨

2 議事

(1) 令和6年度郷土民家園指定管理業務の管理運営状況の評価について

前回会議での委員の意見を基に作成した評価案(資料1)について審議。この評価案に委員の意見を反映したものを、本審議会の評価とする。

(2) 令和7年度文化財保護事業の予定について

事務局より資料2について説明。質疑あり。委員の意見を参考にして、本年度も事業にあたってもらいたい。

3 その他

次回審議会の事務連絡など

2 議事

(1) 令和6年度郷土民家園指定管理業務の管理運営状況の評価について

事務局より資料Ⅰ「令和6年度 指定管理事業報告概要及び評価(案)」ほか参考資料について説明、委員との質疑を行った。

【総括】

□開園から30年を迎え、非常に安定した事業運営・経営がなされている。今後は、未来につなげる新しい視点や、時代の流れやニーズにあった取り組みがなされることに期待する。今回の審議会からの意見を参考に、具体的な数値等を加筆・修正し、事務局作成の評価案を本審議会の評価とする。

【業務実施状況について】

□指定管理者が行った事業運営の実施状況について報告があったが、資料について新規事業に印をつけるなど工夫をしないと、新規事業を開拓したという評価がしにくい。資料の見せ方に工夫をした方がよい。

△表を工夫し、分かりやすく変更する。

□外国語版のワークシートについて、日本語版と英語版のほかに中国語版やスペイン語版があるが、市内にスペイン語を話す市民は多いのか。

△市内にはペルーの方が多く住んでおり、スペイン語を話す方は非常に多い。

□3館合同企画展を実施している期間の来園者数が多い。現在の年2回をもう少し増やすことはできないのか。

△現在は、ひな祭りと端午の節供の期間に行っている。いずれも気候がよく、来園者数が年間通しても多い時期である。現在は、夏は猛暑で冬はとても寒く、この時期は来園者数自体が落ち込んでしまうため、合同企画展を実施しても来園者数の増加につながるかは不透明である。また、指定管理者としても自主事業のほか、市の仕様に基づいた年中行事の実施を行う必要があるため、なかなか無理をいえない点もある。

□比較的ひな祭りや端午の節供などの人形展は人が集まりやすい傾向がある。

△3館合同企画展を始めた時の一番最初のテーマは、七夕だった。この企画を継続していく中で、3館のそれぞれの事業の実施状況やスケジュールで現在の2回に落ち着いていったが、今後の課題として3館で共有したい。

△つる舞の里歴史資料館では、つきみ野の婦人会の手芸クラブの方々のご協力をいただいて、ひな祭りや端午の節供の人形を飾っている。毎年、快くご協力をいただいている。

□お盆の行事であるスナモリ・盆棚は、大和市にとっても昔からある風習で、妖怪などをイメージさせる面もあり、テーマとしてもとても興味深い。企画展などで深掘りするととても面白いと思う。

□郷土民家園に配置されている学芸員の方は、これまでの職員を見てきても非常に優秀。市職員や他施設の職員との交流や連携によって、一層の刺激が得られると思う。そういった場を提供してあげてほしい。

□郷土民家園は、令和6年度で開園30周年を迎えた。大変安定した運営であることがうかがえるが、30年経ったことから、更なる改革・発展をさせてみようという試みがあると大変頼もしい。新しい事業、新しい園内の整備といった面で、指定管理者からの提案を期待したい。

□県内の古民家施設や、近代建築の施設などと連絡協議会のようなものはないのか。

△連絡協議会のようなものはないが、何かあったときに問い合わせをしたり、施設見学などは行っている。

□他施設と連携し関わりを持つことは非常に大切だと思う。

□古民家施設は、建物自体を活用していかないと耐性的にも衰えてしまう。大和市はフィルムコミッションなどで、ロケの誘致などをしており、それこそ明治・大正・昭和の近代建築などの建物を含めてもっと文化に特化して活用してもいいのではないかな。

△市内家屋の建造物の悉皆調査は昭和50年頃より行っているが、近代以降の建築も基本的に江戸時代の農家の家屋と同じ様式のため、いわゆる鉄筋コンクリート造り、コンクリート造りとか石造りの近代建築というものは、ほぼないのが現状。市内は開発による新陳代謝が激しい街のため、昭和の初期の映画館といった当時の近代建築はほとんど壊されて残っていない。近代建築として可能性があると考えているのは、一つは厚木基地内の旧日本海軍が建造した格納庫や武道場などであるが、大半が米軍の管轄なので、我々の方で働きかけることが難しい。また、基地に関係して、いわゆる米軍ハウスと呼ばれるアメリカ様式の家などが中央林間あたりに残っているので、今後そういった家屋も対象になる可能性はある。

□団体見学、特に小学校の見学について、市外の学校から17件も来園していることは評価できるが、市内の小学校にもっと活用してもらっても良いのではないかな。小学3年生は昔のくらし、郷土の学習をするので、施設を活用してもらって働きかけをしても良いのではないかな。つる舞の里歴史資料館と下鶴間ふるさと館と合わせて活用してもらえれば、来園者の増加にも結び付くと思われる。

(2) 令和7年度文化財保護事業の予定について

事務局より資料2「令和7年度 文化財保護事業の予定」ほか参考資料について説明。

【総括】

□委員の意見を参考にして、本年度も事業にあたってもらいたい。

【民俗文化財保護事業について】

□福田神社の囃子獅子舞について、道具を評価するにあたり、市内のお囃子の状況把握をする必要があることを昨年度から提案しているが、進捗状況はどうか。今年度どのように進めていくのか。
△今年2月の審議会でご意見をいただき、市内お囃子の悉皆調査と福田神社囃子獅子舞の道具の全点調査の実施に向けて今年度は進めていきたい。今年度は民間信仰調査会で進めていくものと考えている。まずは、9月下旬に予定している文化財保護指導員会議で、市内10地区に在住する指導委員に状況確認を依頼することから始めたい。

【史跡・天然記念物保護事業について】

□所蔵している植物や昆虫標本は、市内で採取したものか。夏休みに子供たちを対象にした、標本の展示会や専門家の先生をお招きした講座の企画などを検討しても良いのではないか。
△以前は、つる舞の里歴史資料館でミニ企画展のようなものを実施したり、虫を題材にした講座を行ったこともあったが、近年は実施していないので、検討してみたい。
□標本はどこでどのように管理しているのか。管理について専門家のアドバイス等を受けているのか。
△つる舞の里歴史資料館の収蔵庫にて、温湿度管理のもと保管し、定期的に状況を確認している。特に防腐剤防虫剤等は使用していないが、良い状態を保っていると思っている。しかしながら、自然分野の専門家に収蔵庫での管理状況を見ていただき、アドバイスや指導を受けたことは、少なくともここ10数年はない。

□昆虫標本などで、大和市で特に大事に保存していく必要がある昆虫はいるのか。
△昭和50年から60年代にかけて調査を行っているが、その当時いた昆虫が今は採取できないことも十分にあり得ると思われる。今では見られない貴重な標本も中にはあるかと思われる。

【(参考事業)市史編さん関係事業について】

□歴史的公文書の収集整理事業について、具体的にどういうことをしているのか、成果などを教えてほしい。
△市の公文書のうち保存年限が終了し廃棄を迎えるものを、毎年5月に収集整理している。そのうち、収集基準に基づき、歴史的公文書として残した方がよいものを選別し、目録を作成している。

例年およそ保存箱で100～120箱ほど収集し、選別・目録作成を行い、大体85から90箱分の公文書を歴史的公文書として保管している。今年度あたりから、新型コロナウイルス関係の公文書も収集の対象となってきた。

3 その他

【事務局から補足・お知らせ】

①市指定天然記念物の下和田のケヤキについて

寄付を受けた土地205平米について、今年度整備事業を行う予定。今までは個人の敷地の塀内にあったが、寄付を受けた敷地内の塀を一部カットし、出入り口を設けて市民の方が間近で見学できるよう整備を進めていく予定。

②下鶴間ふるさと館の公開について

令和7年度から、日中は母屋を閉じ外観のみ公開している。施設の開館日と開園時間に変更はないが、月2回母屋の内部を開けて、公開する運営に変更している。

来館者数は、カウンターの数字だけみると、今のところあまり大きな変化はみられない。

③令和7年度第2回文化財保護審議会について

来年2月に予定している。